アドルフ・アイヒマン—彼は恐ろしく平凡な男だった。
生真面目で忠実なるナチスの従僕は
夥しい数の人々を死の収容所へと送り込んだのだ。

なぜ、いま、アイヒマン裁判なのか

高橋哲哉【東京大学助教授】

なぜ、いま、アイヒマン裁判なのか。

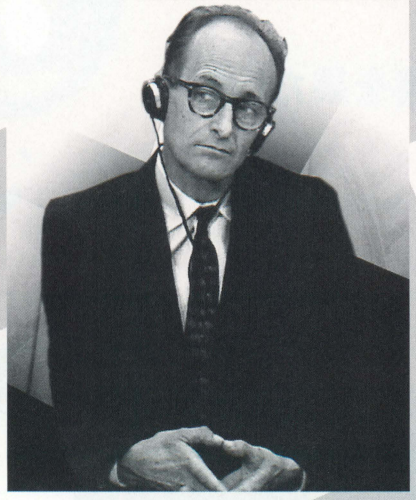
映画『スペシャリスト―自覚なき殺戮者』を観ながら、私たちがまず突き当たるのはこの問いである。編集の素材となった映像は、すべて1961年当時のアイヒマン裁判の資料映像である。なぜ、いま、四十年近くも前の過去の裁判記録が問題なのか。ロニー・ブローマンとエイアル・シヴァンの答えは、一人の女性思想家を経由する。――二十世紀を代表する政治理論家の一人、ハンナ・アーレント。彼女のアイヒマン裁判傍聴記『イェルサレムのアイヒマン』(1963)は、当時大論争を巻き起こした。そこで提起された問題群は、いまも決して古びていない、否、ますますアクチュアリティを増している、とブローマンとシヴァンは考えている。編集に当たって二人が依拠したのは、アーレントのアイヒマン裁判論だった。ハンナ・アーレントはいわば、この映画の〈もう一人の作者〉なのだ。

では、『イェルサレムのアイヒマン』は何を問題にしたのか。一つは、「悪の凡庸さ」の問題である。数百万人のユダヤ人を「死の工場」で大量殺戮したナチスドイツ。その下手人の一人アイヒマンなら、さぞかし野獣のような殺人鬼、冷酷無比な悪魔のごとき男にちがいない。誰もがそう思いたがっていた。ところが、裁判を通じて浮かび上がったのは、まったく凡庸な普通の人間、組織の歯車として働く小役人にすぎない、とアーレントは喝破した。もう一つは、イスラエル国家による裁判の政治的利用の問題だ。刑事裁判とは本来、ある人の行為が法に照らして有罪か無罪かを判定するものである。ところがこの裁判は、アイヒマン個人の犯罪をはるかに超え、ユダヤ民族に対するホロコーストの罪全体を告発する場になった。

さらに、ユダヤ人評議会の問題がある。ナチスドイツは、占領地のユダヤ人を集めてゲットーを作らせ、ユダヤ人指導者たちに「自治組織」の名目で評議会を作らせた。しかし、これらのユダヤ人評議会は、ナチによる同胞の強制移送に協力し、ホロコーストの犠牲を大きくした、とアーレントは批判した。ブローマンとシヴァンによれば、これらの問題はそれぞれ、システム化された社会での個人の責任の問題、国家による「歴史の記憶の政治的操作」の問題、人道援助活動の政治的中立か介入かという問題として、現代世界のあらゆる場所で、いま現在のこととして問われている問題である。『スペシャリスト』の映像は、一瞬たりともアイヒマン裁判の法廷を離れない。が、この映画に込められたメッセージは、現代社会に普遍的なものなのだ。

現代は「オフィスの犯罪者＝事務的犯罪者」の時代だ、とブローマンとシヴァンは言う。日本でも薬害エイズ事件をはじめ、「官僚の犯罪」が問われはじめている。官僚だけではない。つい最近の東海村ウラン加工施設の臨界事故を見れば分かるだろう。企業の中で、あるいはその他の場所で、私たちが毎日のようにルーティンワークとして行なっていることが、ひょっとしたら何か重大な結果をもたらすのではないか。私たちはそのことを、どこまで自覚しているのだろうか。

「自覚なき殺戮者」アドルフ・アイヒマンのケースは、決して他人事ではない。私たち一人一人がこう問われている。「あなたはもう一人のアイヒマンではないか」と。



■アドルフ・アイヒマン――元ナチスのエリート中佐。「ユダヤ人移送計画」の専門家(スペシャリスト)で、夥しい数のユダヤ人を強制収容所に送り込み、死に至らしめた男―1961年にエルサレムで裁かれた"今世紀史上、最大の犯罪に荷担した男"の素顔は、驚くほど〈凡庸な〉人間だった…。

この衝撃映像はナチス戦犯裁判で唯一の記録映像であり、近年発見された350時間に渡るフィルムを約2時間に編集し、ホロコーストについて新たな見地を見出した長篇ドキュメンタリーである。既存の記録映像に対して最新のデジタル処理を行うという画期的な試みが、作品の意図を明確にし、裁判に臨場感を与えている。当時全世界がその動向に釘付けになった"アイヒマン裁判"の全貌が、いま明らかになる。

スペシャリスト
――自覚なき殺戮者――

監督・製作:エイアル・シヴァン　脚本:エイアル・シヴァン／ロニー・ブローマン　編集:オードリー・モーリオン
音響:ニコラス・ベッカー／オードリー・モーリオン
1999年フランス・ドイツ・ベルギー・オーストリア・イスラエル／128分／白黒／スタンダード／ドルビーSRD／35mm／日本語・英語字幕付　監修:高橋哲哉　日本語字幕:水原文人　配給:セテラ
◆1999年第49回ベルリン国際映画祭招待作品

関連図書

「不服従を讃えて―《スペシャリスト》アイヒマンと現代」
ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン著　高橋哲哉／堀潤之・訳　産業図書
1月刊行予定

「イェルサレムのアイヒマン　悪の陳腐さについての報告」
ハンナ・アーレント著　大久保和郎・訳　みすず書房

東京・大阪で大ヒット!　新聞各紙にも取り上げられ話題のドキュメンタリー、遂に京都初登場!!

http://www.rcsmovie.co.jp/minami/

7月4日(火)～16日(日)京都ロードショー!

7／4(火)～14(金)	12:05～昼1回上映(2:15終了)
7／15(土)・16(日)	4:15～夕1回上映(6:25終了)

■特別鑑賞券1,400円発売中!■
(当日／一般1,700円の処)
劇場窓口、チケットぴあ、ローソンチケット他にて

京都みなみ会館
075(661)3993
九条大宮・近鉄東寺駅(JR京都駅よりひと駅)西へ150m